

プラネット大学

コース6 マイクロファイナンス 情報マネジメントシステム

特定非営利活動法人 プラネットファイナンスジャパン



マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム(MIS)

レッスン1 情報マネジメントシステム(MIS)とは

定義と重要性

情報マネジメントシステム(MIS)の構成

情報フローチャート

マイクロファイナンス業務のための財務情報フローチャート

モニタリング・システムと情報マネジメントシステム(MIS)の比較

レッスン2 適切なMISの設置

MFIのためのMISの設計の難しさ

業務の効率化や組織的な持続可能性のためのMIS

適切なMISを開発するための要点

レッスン3 MIS開発・実装

MISチームの結成とニーズ分析

実現可能性とMISのプロジェクトレポート

技術に関するソフトウェアの評価とプランニング

システム開発・実装

システムのメンテナンス最適化とMISの監査

マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

情報マネジメントシステムとは

MISは、経営者に対して生産性向上、組織の業績改善のための決断をするための情報を提供するのシステムである。

D

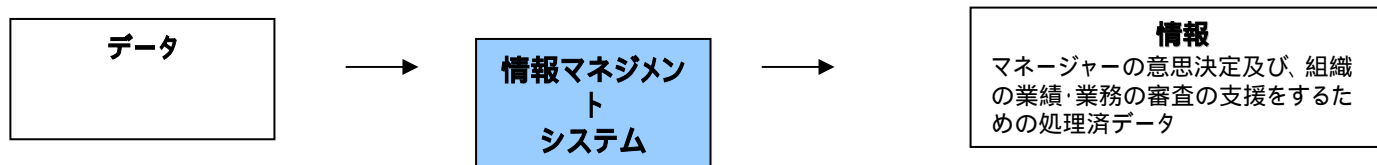
情報マネジメントシステムは、未加工のデータを集め、有効な情報へと加工するための資源や手順を集めて構成したものである。このシステムは意思決定の情報を必要とする人々に、正確でタイムリー、かつ適切な情報を、組織の目的を効率的に成し遂げるための組織構造の中で提供するものである。

マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

情報マネジメントシステムとは

MISは、ビジネスや組織内での情報の収集、保管、監督・監視、及び検索に渡る全ての要素に関わる。

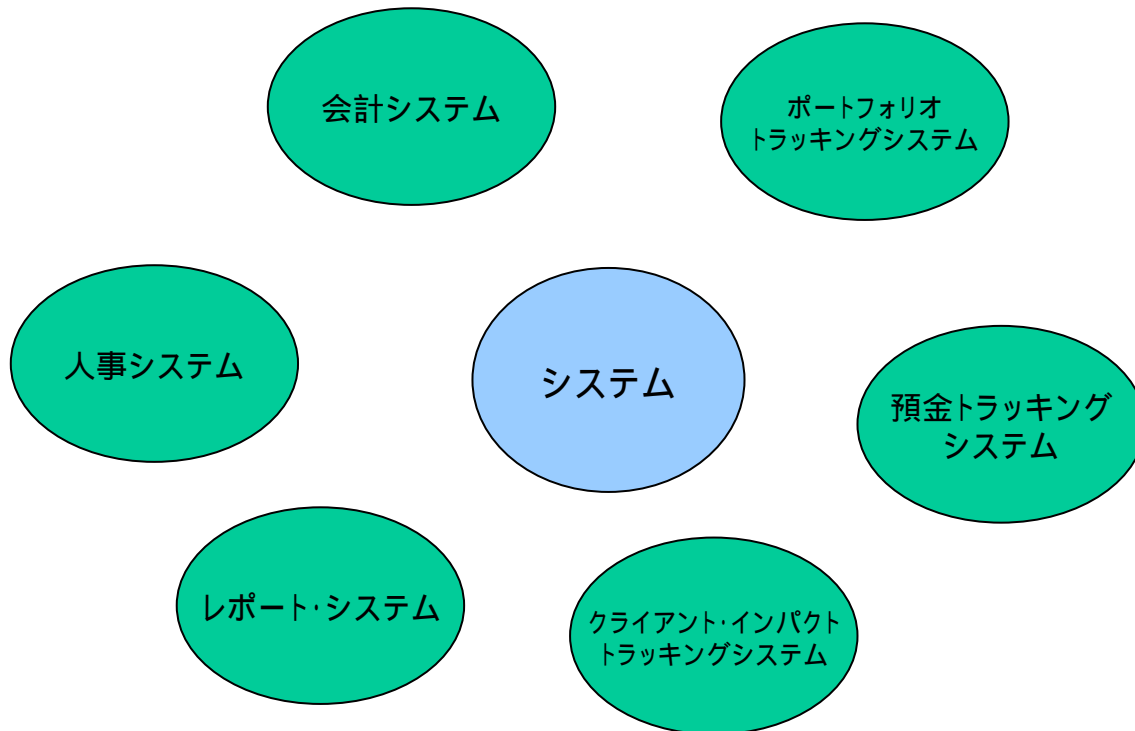
ローンの受け取りからスタッフの休暇願いまでを含めた企業の業務を導くためのあらゆるポリシーや手順の確立、及び、実践は ミーティング、レポート、ポリシー、手順、スタッフの構造、仕事の説明、計画プロセスも含め、ソフトウェア、ハードウェアと 合わせて情報マネジメントシステムを形成する。



マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

情報マネジメントシステムとは

MF1の成功要因の1つは、以下に挙げられる様々なシステムを統合し、あらゆるデータをタイムリーで、正確、そして適切に共有できるよう開発することである。情報がフィールドレベルで集められ、中央オフィスで集積結合され、情報システムマネジメント部門は、各地域のレポートファイル、トップマネージメントや該当データや業績の分析などをまとめ、マネージメント情報レポートを準備する。



マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

MISの構成

MF1の成功要因の1つは、以下に挙げられる様々なシステムを統合し、あらゆるデータをタイムリーで、正確、そして適切に共有できるよう開発することである。情報がフィールドレベルで集められ、中央オフィスで集積結合され、情報システムマネジメント部門は、各地域のレポートファイル、トップマネジメントや該当データや業績の分析などをまとめ、マネジメント情報レポートを準備する。

会計システム:

会計システムは、ポートフォリオ監視システムと共に、マイクロファイナンスMISの主要部分の一つである。預金通帳(パスブック)、領収証・証拠書類のコピー、取引記録、財務諸表(レシートや支払明細書、収入・支出勘定、貸借対照表など)を含み、会計手順マニュアル、ファンド会計、テスト監査等を説明できるようにする。

現金帳、一般取引記録、補足資料、公式文書は、会計システムに維持される。当システムを通して、金銭的取引や会計取引記録は、ファンドのマネジメントに必要な情報で、支払い元や支払い用途を報告する。組織によっては、一般的な記録や取引記録、その他ビジネスのマネージメントに必要な記録のシステムを手動で維持しているところもある。

会計は、支店長(BA)とクレジットオフィサー(ローンオフィサー)(CO)によって維持される。支店レベルでは、現金帳や一般取引記録は、リボルリング・ローンファンドを監視するために持続して使われ、レシート・支払リポートとして要約される。現金帳は、日々の現金の出入りや、手元にある現金、部署とグループ全体間の処理を記録し、マネージメントの銀行取引の助けとなる。一般取引記録は、部署の会計に対する貸方および借方を整理する。

会計システムは、従業員が簡単に会計を維持でき、会計ポリシーを理解できるよう、シンプルにすべきである。会計ポリシーは、一般的に認知された会計基準やその国の会計主体に沿う必要がある。

人事シ

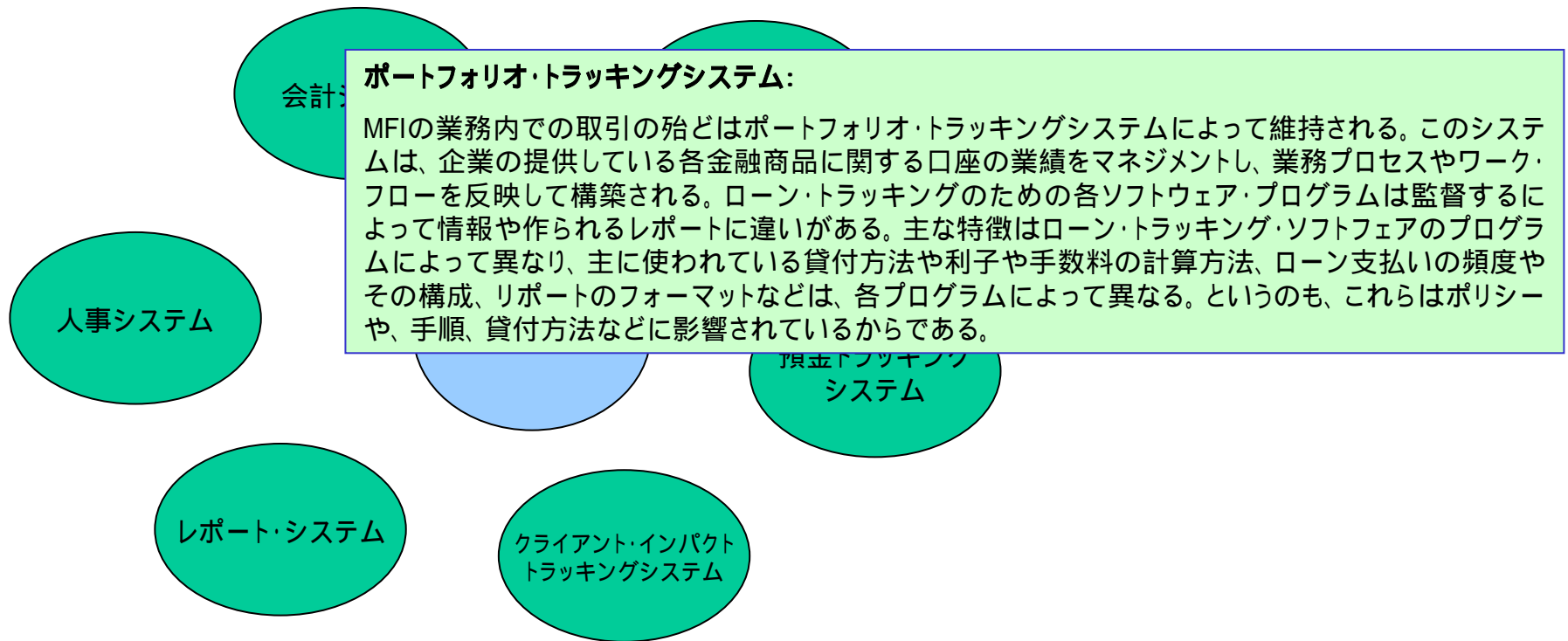
レポート・システム

クライアント・インパクト
トラッキングシステム

マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

MISの構成

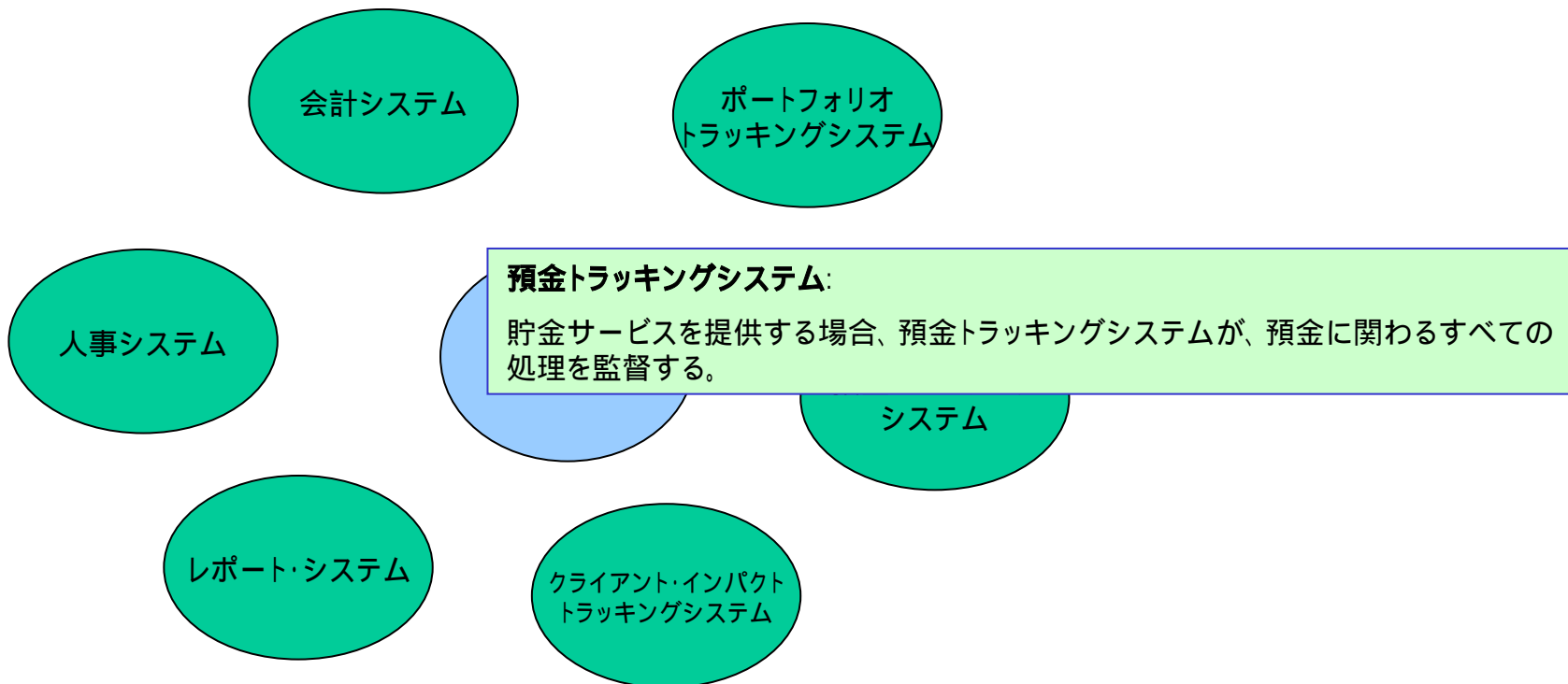
MFIの成功要因の1つは、以下に挙げられる様々なシステムを統合し、あらゆるデータをタイムリーで、正確、そして適切に共有できるよう開発することである。情報がフィールドレベルで集められ、中央オフィスで集積結合され、情報システムマネジメント部門は、各地域のレポートファイル、トップマネジメントや該当データや業績の分析などをまとめ、マネージメント情報レポートを準備する。



マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

MISの構成

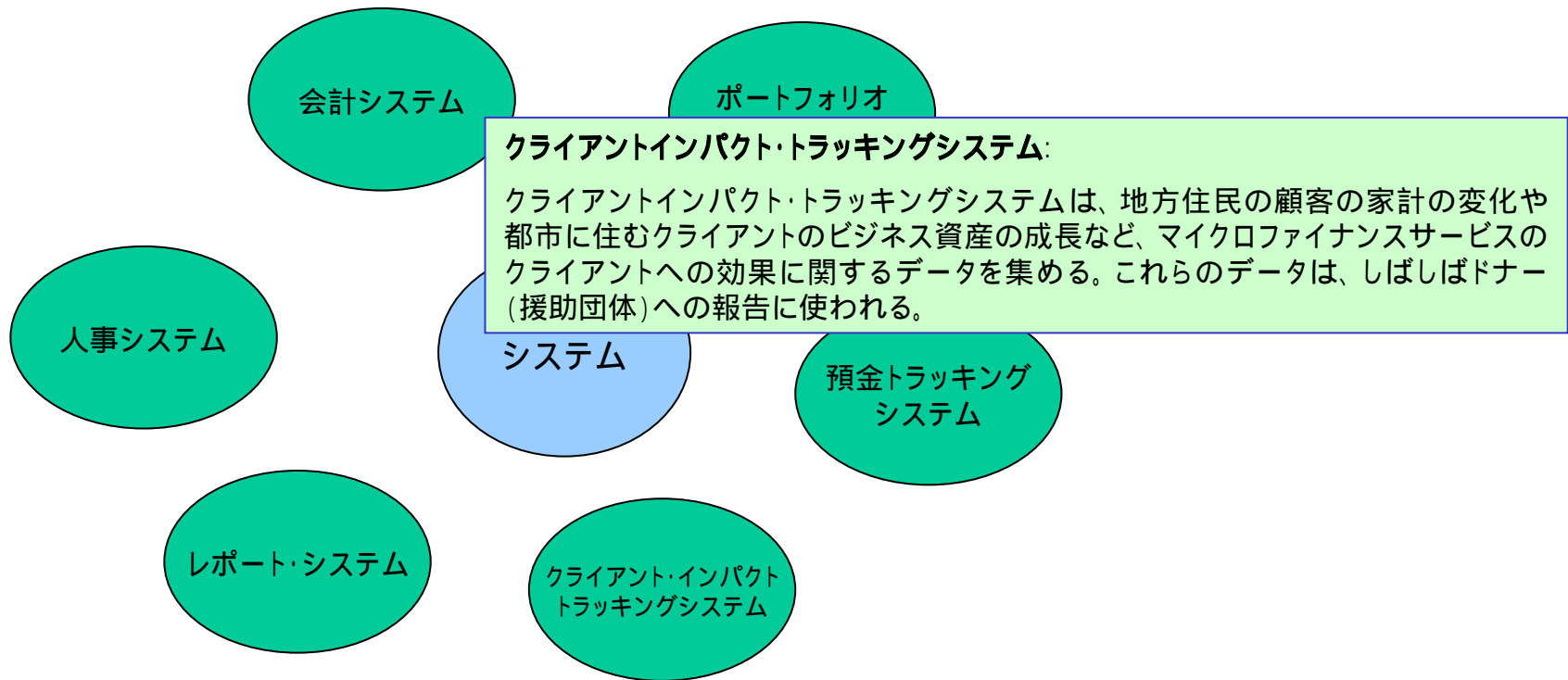
MFIの成功要因の1つは、以下に挙げられる様々なシステムを統合し、あらゆるデータをタイムリーで、正確、そして適切に共有できるよう開発することである。情報がフィールドレベルで集められ、中央オフィスで集積結合され、情報システムマネジメント部門は、各地域のレポートファイル、トップマネジメントや該当データや業績の分析などをまとめ、マネージメント情報レポートを準備する。



マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

MISの構成

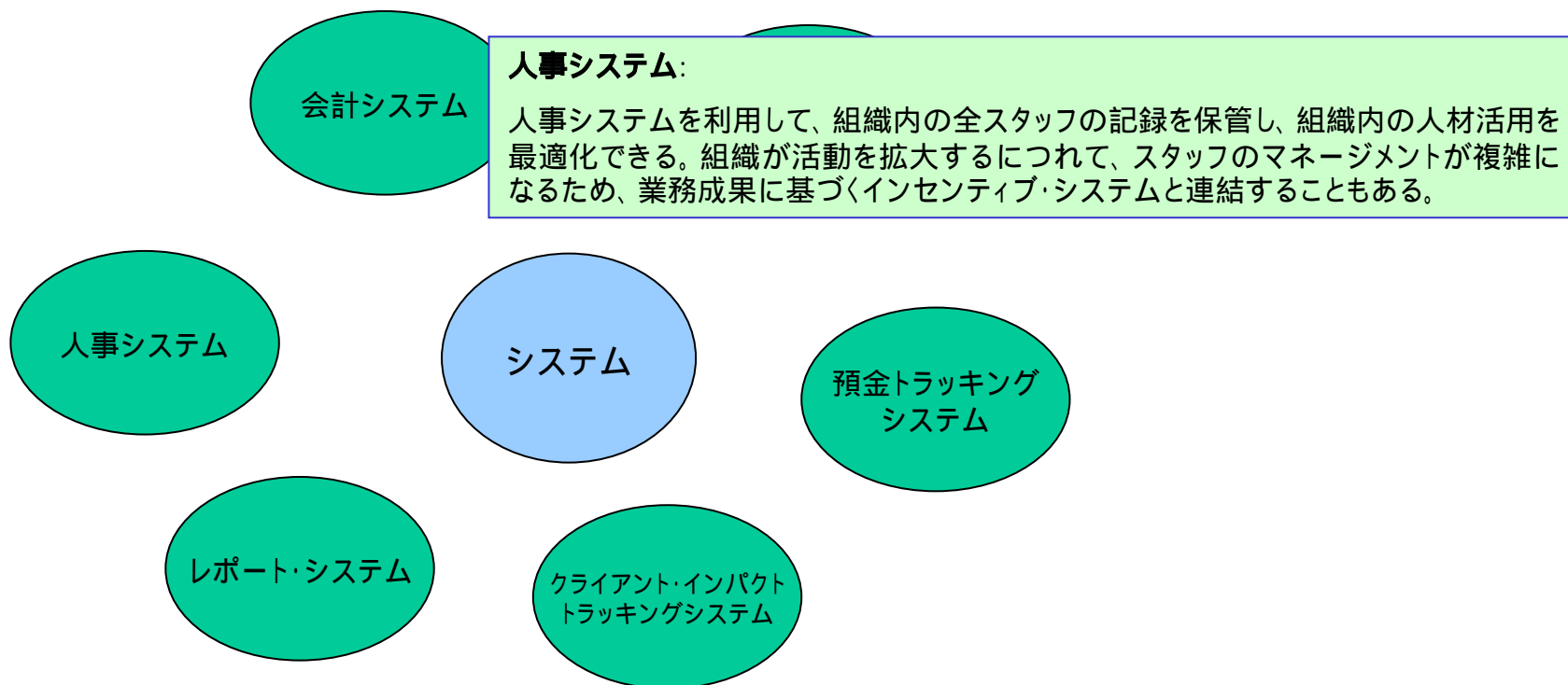
MFIの成功要因の1つは、以下に挙げられる様々なシステムを統合し、あらゆるデータをタイムリーで、正確、そして適切に共有できるよう開発することである。情報がフィールドレベルで集められ、中央オフィスで集積結合され、情報システムマネジメント部門は、各地域のレポートファイル、トップマネジメントや該当データや業績の分析などをまとめ、マネージメント情報レポートを準備する。



マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

MISの構成

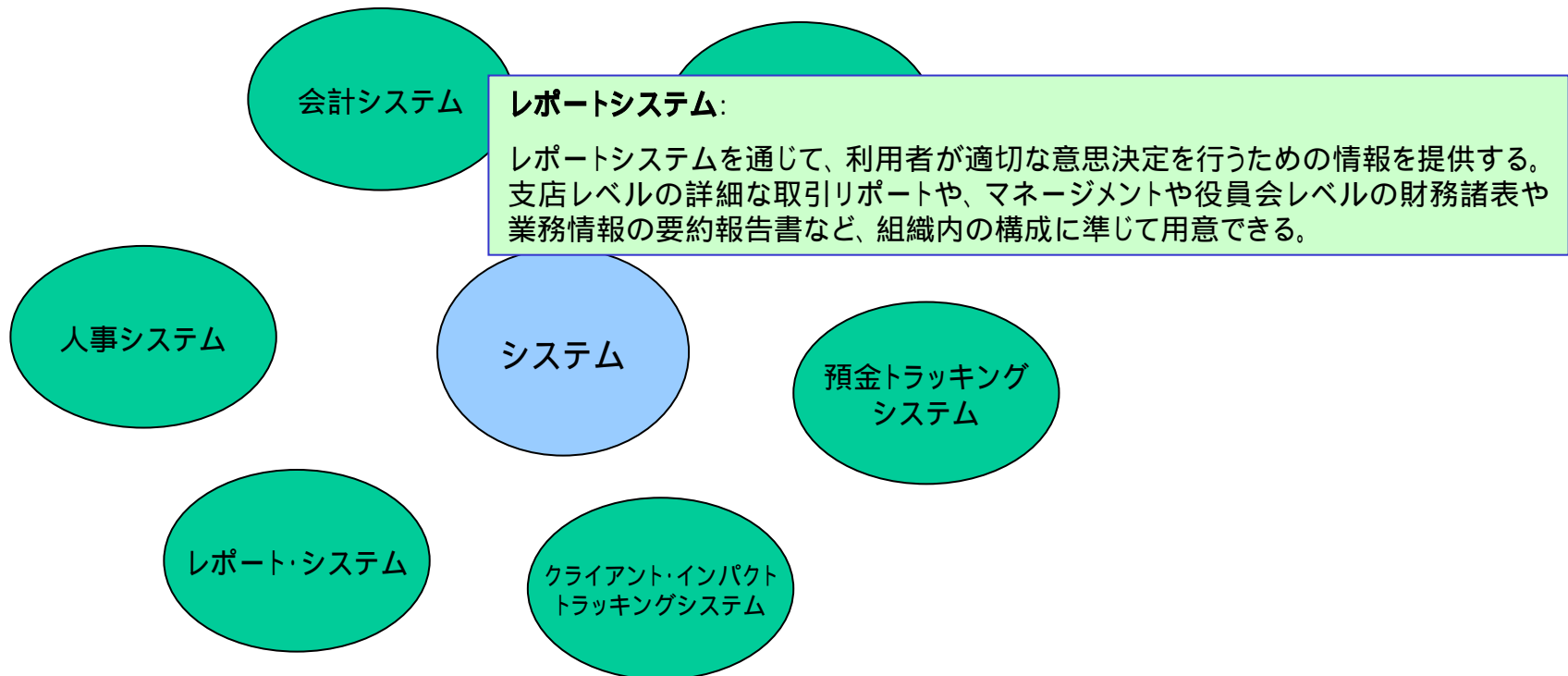
MFIの成功要因の1つは、以下に挙げられる様々なシステムを統合し、あらゆるデータをタイムリーで、正確、そして適切に共有できるよう開発することである。情報がフィールドレベルで集められ、中央オフィスで集積結合され、情報システムマネジメント部門は、各地域のレポートファイル、トップマネジメントや該当データや業績の分析などをまとめ、マネージメント情報レポートを準備する。



マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

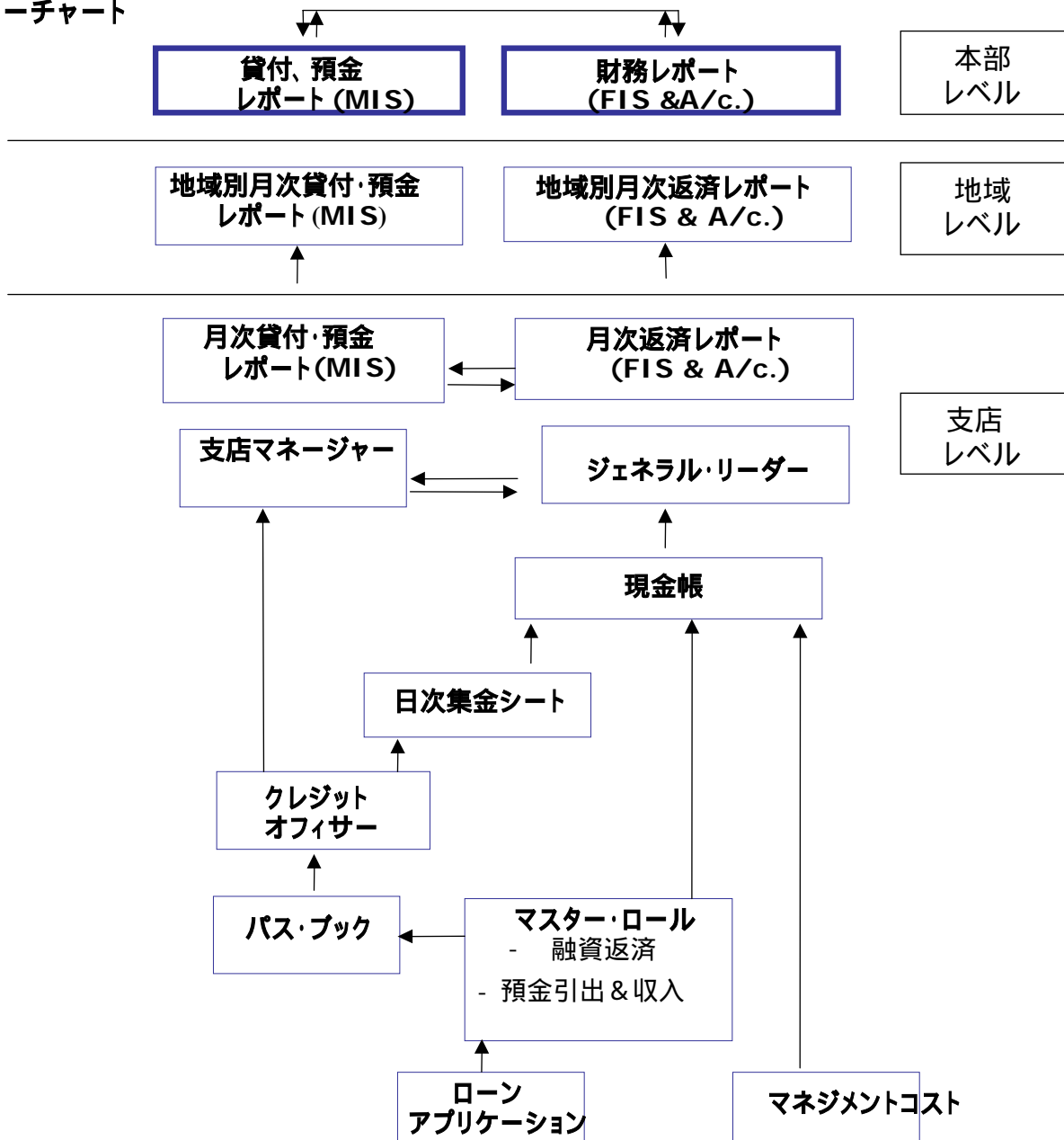
MISの構成

MFIの成功要因の1つは、以下に挙げられる様々なシステムを統合し、あらゆるデータをタイムリーで、正確、そして適切に共有できるよう開発することである。情報がフィールドレベルで集められ、中央オフィスで集積結合され、情報システムマネジメント部門は、各地域のレポートファイル、トップマネージメントや該当データや業績の分析などをまとめ、マネージメント情報レポートを準備する。



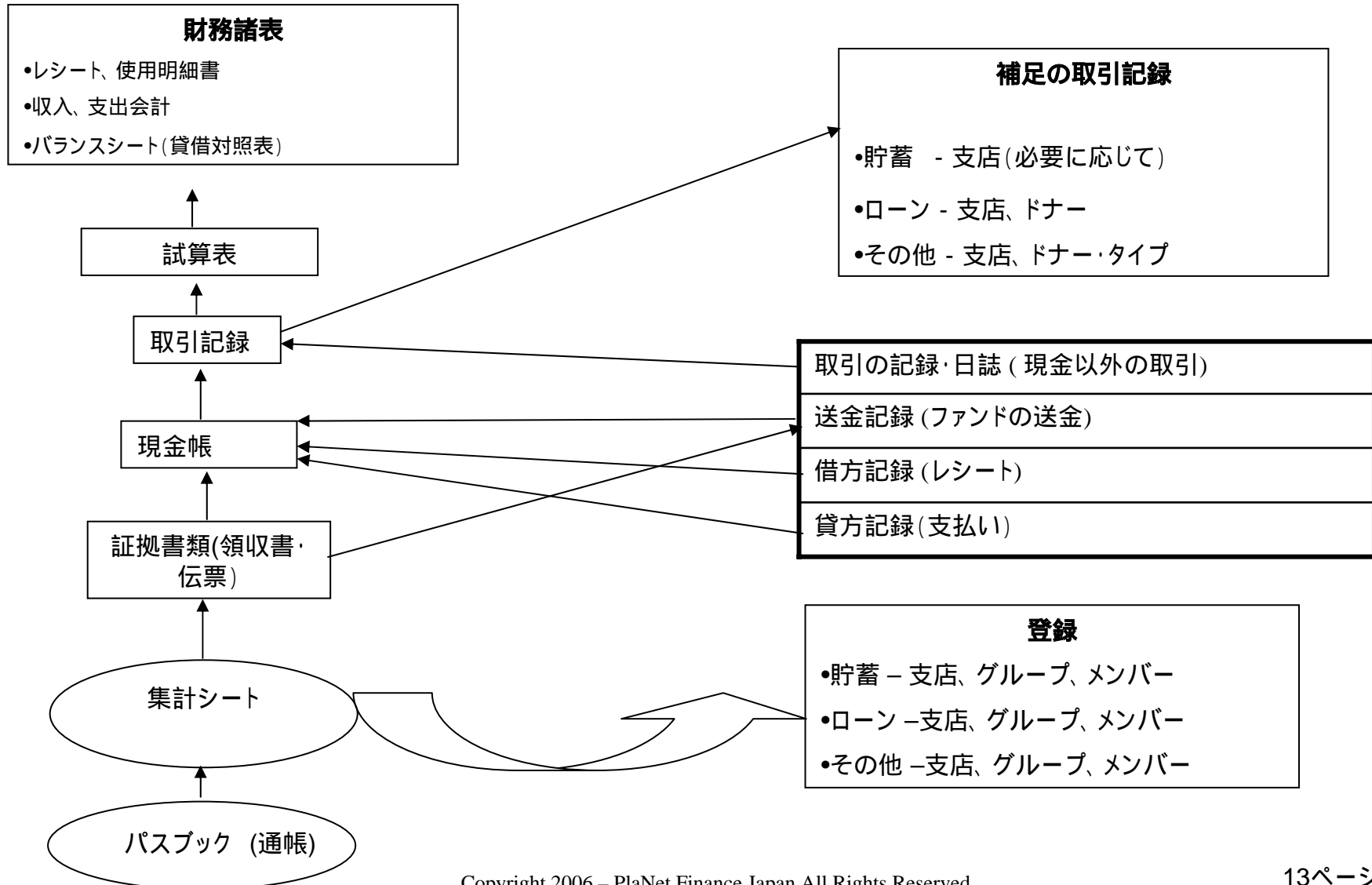
マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

情報マネジメントのフローチャート



マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

マイクロファイナンス業務のフローチャート



マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

モニタリングシステムと情報マネジメントシステム(MIS)の比較

モニタリング	MIS
外部のプログラマーが設計	情報システム作成者が設計
外部のプログラマーがデータ回収	情報システムスタッフのデータを提出
サンプルベース	グローバル
ほとんどが質的データを扱う	ほとんどが量的データを扱い、処理後にデータが質的情報となる
ほとんどが一次資料を扱う	二次的資料を扱う
必要に応じて	定期的に（一定期間は固定）

マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム(MIS)

適切なMISの設置

マイクロファイナンス機関(MFI)、特に活動が拡大してクライアントが数千人以上に達している組織は、大量のデータを抱えており、よりプロフェッショナルな情報システムが必要である。このように成長している組織のマネージャーは、徐々に現場の業務のコントロールが出来なくなり、より良い情報システムをもって、ポートフォリオや財政的オペレーションのマネジメントを改善する必要があると感じ始めている。

MFIがうまく機能するためのカギ



MISの業務の効率化MIS

MISの組織的安定、持続能力

MFIのためのMISを作るにあたっての困難

不適切な文書

脆弱なインフラ

ビジネスに関する
情報を入手する
可能性の低さ

マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

適切なMISの設置

マイクロファイナンス機関(MFI)、特に活動が拡大してクライアントが数千人以上に達している組織は、大量のデータを抱えており、よりプロフェッショナルな情報システムが必要である。このように成長している組織のマネージャーは、徐々に現場での業務遂行に関するコントロールが出来なくなり、より良い情報システムをもって、ポートフォリオや財政的オペレーションのマネージメントを改善する必要があると感じ始めている。

MFIがうまく機能するためのカギ



MISの業務の効率化MIS

MISの組織的安定、持続能力

MFIのためのMISを作るにあたっての困難

不適切な文書

脆弱なインフラ

ビジネスに関する
情報を入手する
可能性の低さ

・不適切な文書

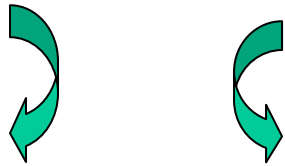
MFIは、より広い範囲のクライアントの情報をマネジメントし、財務的な情報のみならず、社会・経済的背景、貧困レベル、そして、MFIのサービスが生活面に与える影響など、人々の仕事の社会的な面もモニターする必要がある。商業的、また伝統的な金融システムが、この種の情報まで考慮するように出来ていることはほとんど無い。

マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

適切なMISの設置

マイクロファイナンス機関(MFI)、特に活動が拡大してクライアントが数千人以上に達している組織は、大量のデータを抱えており、よりプロフェッショナルな情報システムが必要である。このように成長している組織のマネージャーは、徐々に現場での業務遂行に関するコントロールが出来なくなり、より良い情報システムをもって、ポートフォリオや財政的オペレーションのマネージメントを改善する必要があると感じ始めている。

MFIがうまく機能するためのカギ



MISの業務の効率化MIS

MISの組織的安定、持続能力

MFIのためのMISを
作るにあたっての困難

不適切な文書

脆弱なインフラ

ビジネスに関する
情報を入手する
可能性の低さ

•MFIの脆弱なインフラ

MFIは、ターゲットとしている貧しい人々にサービスを提供するために、彼らの住んでいる地域(オンラインコミュニケーションや、一般的な情報システムが非常に脆弱な地域)で業務を行っている。

マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

適切なMISの設置

マイクロファイナンス機関(MFI)、特に活動が拡大してクライアントが数千人以上に達している組織は、大量のデータを抱えており、よりプロフェッショナルな情報システムが必要である。このように成長している組織のマネージャーは、徐々に現場での業務遂行に関するコントロールが出来なくなり、より良い情報システムをもって、ポートフォリオや財政的オペレーションのマネージメントを改善する必要があると感じ始めている。

MFIがうまく機能するためのカギ



MISの業務の効率化MIS

MISの組織的安定、持続能力

MFIのためのMISを
作るにあたっての困難

不適切な文書

脆弱なインフラ

ビジネスに関する
情報を入手する
可能性の低さ

既存のバンキングや他のビジネス情報システムを利用する可能性の低さ

MFIの現地スタッフは通常、慣習的なバンキングシステムなど、複雑な情報システムに関する十分な知識や経験がないので、MFIのためのMISは、スタッフが問題なく仕事を実行するために、ごく単純で明確なものにすべきである。

マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

適切なMISの設置

マイクロファイナンス機関(MFI)、特に活動が拡大してクライアントが数千人以上に達している組織は、大量のデータを抱えており、よりプロフェッショナルな情報システムが必要である。このように成長している組織のマネージャーは、徐々に現場での業務遂行に関するコントロールが出来なくなり、より良い情報システムをもって、ポートフォリオや財政的オペレーションのマネジメントを改善する必要があると感じ始めている。

MFIがうまく機能するためのカギ

MFIのためのMISを
作るにあたっての困難

組織の安定性

不十分なMISシステムを持つ組織は、非効率性に苦しむことになり、総合的組織の失敗さえ招くリスクがある。もしローンを担当するオフィサーが、クライアントのローンの詳細を知らなければ、効率的にクライアントにローンを提供することはできない。そして、財務・業務のマネージャーは、組織にとって重要な財務的サポートをしてくれるドナーに対して、要求された情報が十分に得られないことになる。MFIの最高経営責任者は、役員会に必要な、危険なポートフォリオや財務状況のレポートをするにあたって十分な情報を得ることが出来ない。したがって、不十分な情報システムは、組織の安定・成長という面でも、大きな障害となりえるのである。MISは、組織の機能において中核となるものである。

脆弱なインフラ

ビジネスに関する
情報を入手する
可能性の低さ

-ローンオフィサー
-マネージャー
-経営幹部

良質な
MIS

-クライアントの適切なモニター
-より効率的なマネジメントと、
スムーズな意思決定
-適切な業務的・戦略的重大決定

マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

適切なMISの設置

マイクロファイナンス機関(MFI)、特に活動が拡大してクライアントが数千人以上に達している組織は、大量のデータを抱えており、よりプロフェッショナルな情報システムが必要である。このように成長している組織のマネージャーは、徐々に現場での業務遂行に関するコントロールが出来なくなり、より良い情報システムをもって、ポートフォリオや財政的オペレーションのマネージメントを改善する必要があると感じ始めている。

MFIがうまく機能する

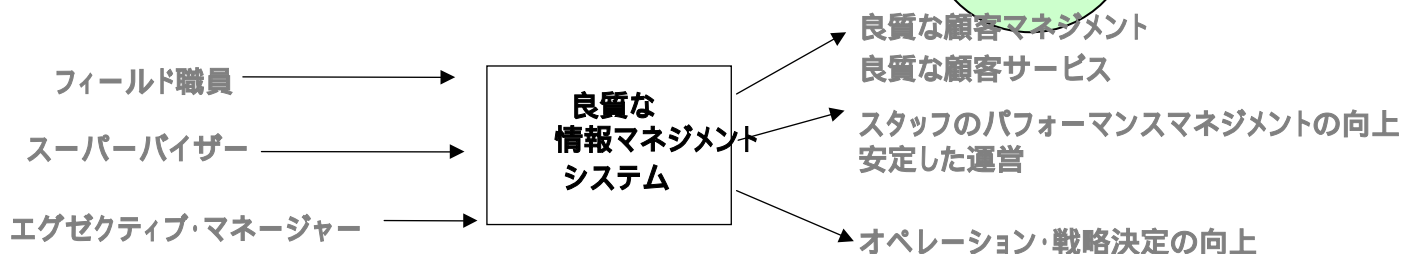


MISの業務の効率化MIS

業務的な効率性

充実した情報システムがあれば、ローンのオフィサーはローンポートフォリオをしっかりとモニターできるのでクライアントにサービスを提供でき、マネージャーは、スタッフの仕事をコントロールすることによって、彼らのパフォーマンスやよりスムーズなマネージメントの決定に関してより確かな判断ができ、人材の効率性の最大化が期待できる。経営幹部や役員は、組織のパフォーマンスをより明確かつ正確に示す指標を得ることができるので、適切な重要な業務的・戦略的決定をすることができる。

適切なMISは、MFIのコストを削減し、収入を上げることができる。シンプルで良質なMISシステムによって、新しく加わったスタッフにも、プログラムの効率的履行ができるようトレーニングを行うことができる。適切なMISはまた、仕事量を減らし、スタッフのペーパーワークを減らすことで、スキルの上達を早めることができる。適切なMISがあれば、平均的能力の人でも会計をうまくマネージメントするようになれるので、プロの会計士を雇う必要もなくなるだろう。システムの単純さや透明性が、履行の成功や効果的なモニタリングへのカギである。



マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

適切なMISの設置

適切なMISを開発するために重要なポイント

- マイクロファイナンス機関のすべてのレベルで必要な情報、及び、情報の流れを特定する
- 十分な時間とコストを費やす
- システムの使用者に対し、MISシステムについての教育を行う

マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

適切なMISの設置

適切なMISを開発するために重要なポイント

- マイクロファイナンス機関のすべてのレベルで必要な情報、及び、情報の流れを特定する
- 十分な時間とコストを費やす
- システムの使用者に対し、MISシステムについての教育を行う

-マイクロファイナンス機関のすべてのレベルで必要な情報及び、情報の流れを特定する

マイクロファイナンス機関のすべてのレベルで将来的なニーズや情報フローの詳細などのニーズを探ることは重要である。それは、マイクロファイナンス機関がそのニーズにあったMISを開発するために、最適な選択を行う必要があるからである。また、情報ニーズを特定し、進歩したMISをデザインするためには、情報使用者とシステム開発者の効果的なコミュニケーションも重要である。

マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

適切なMISの設置

適切なMISを開発するために重要なポイント

- マイクロファイナンス機関のすべてのレベルで必要な情報及び、情報の流れを特定する
- 十分な時間とコストを費やす
- システムの使用者に対し、MISシステムについての教育を行う

十分な時間とコストを費やす

既存システムを変更し、新しいシステムを導入することは、それがたとえ購入、改善、初めからの開発など、どんな方法であろうと、持続的に成功するプロセスには十分に時間とコストをかけることが必要である。つまり、実現可能で詳細な計画を練ることが重要である。

マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

適切なMISの設置

適切なMISを開発するために重要なポイント

- マイクロファイナンス機関のすべてのレベルで必要な情報及び、情報の流れを特定する
- 十分な時間とコストをかける
- システムの利用者に対し、MISシステムについての教育を行う

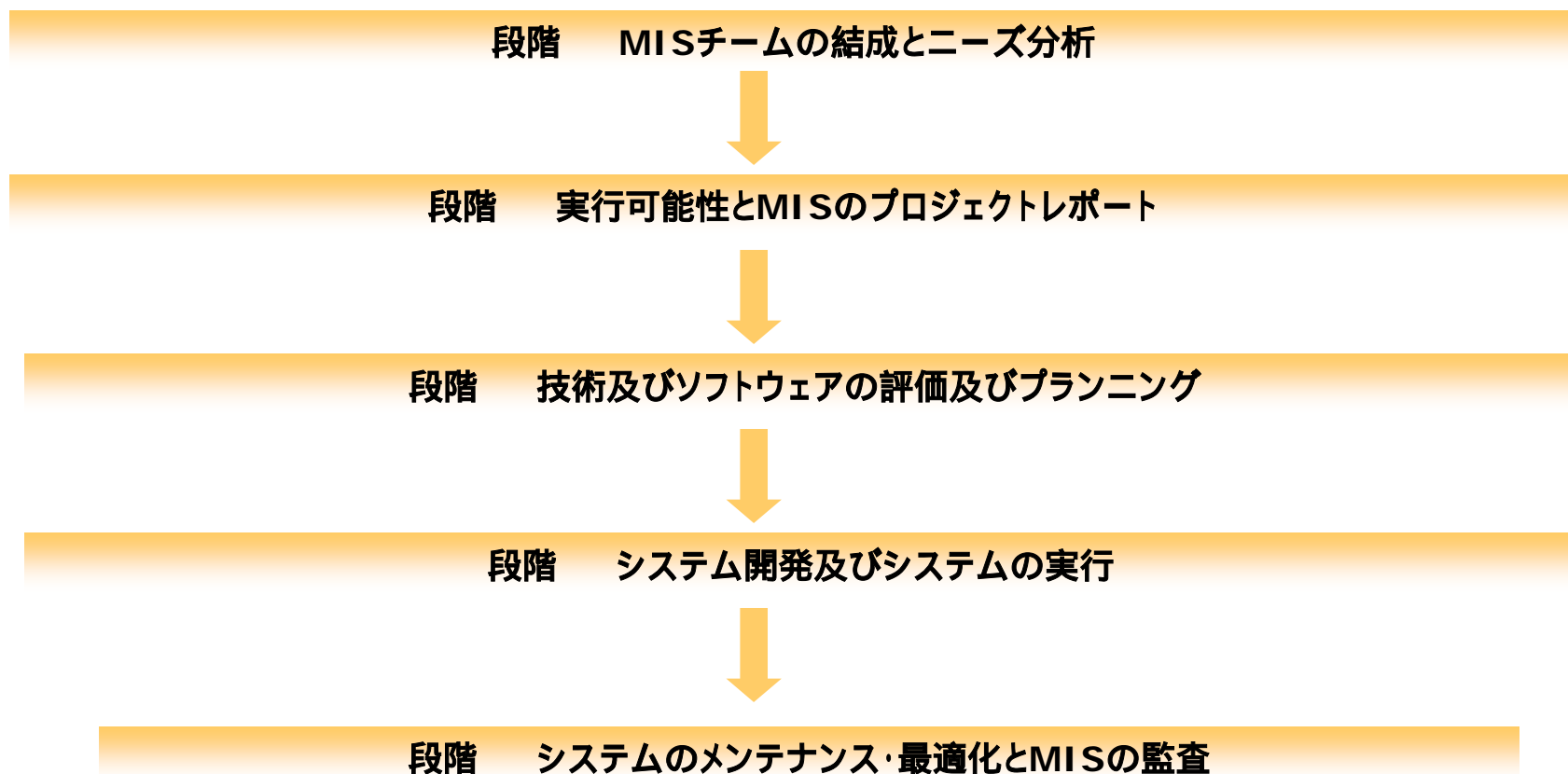
システム利用者に対し、MISシステムの教育を行う

コンピュータ化された情報システムを利用して何が可能か情報使用者を教育することで、使用者は現実的な期待を持つことができ、またシステムを有効に使うことができる。

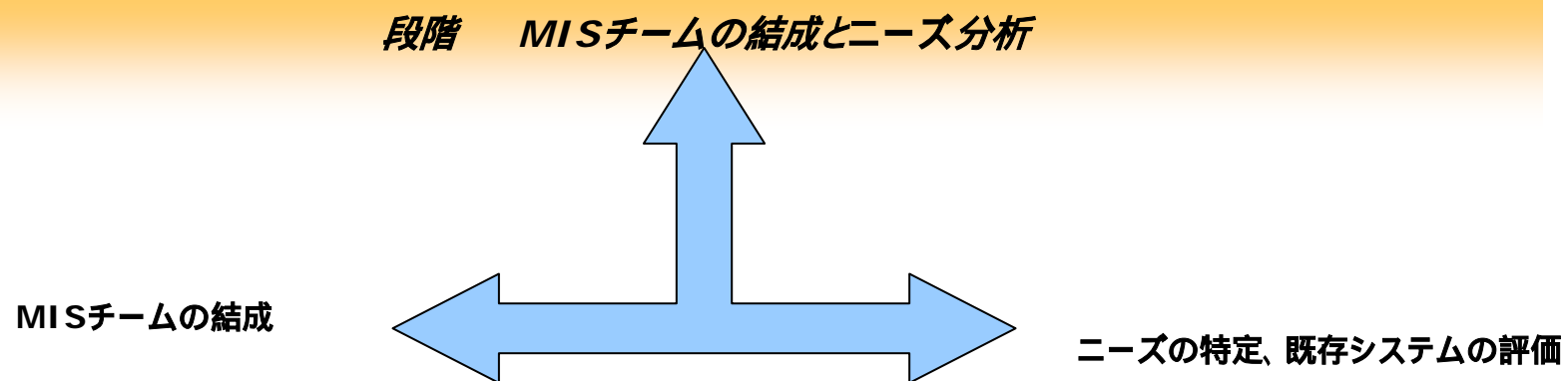
マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

MISを開発・使用するための段階(ステップ)

マイクロファイナンス分野が直面している最大の課題の1つは、正確な情報マネジメントシステム(MIS)の開発である。MISを開発する際に重要な要素は、まず情報ニーズを特定すること、次に情報システム開発者と使用者が効果的にコミュニケーションをとること、そして、コンピューター化された情報システムを使用する人々に対して十分な教育を行い、情報技術の現実的な利用に結び付けることである。



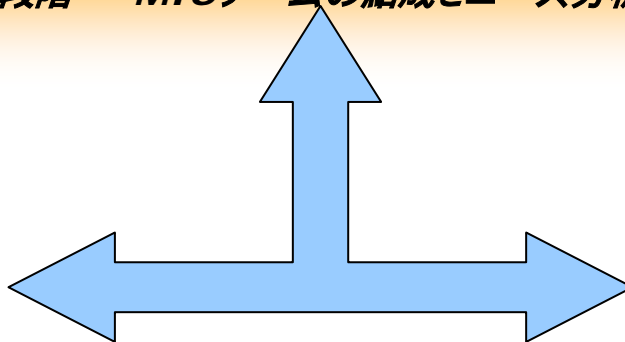
マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム



マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

段階 MISチームの結成とニーズ分析

MISチームの結成

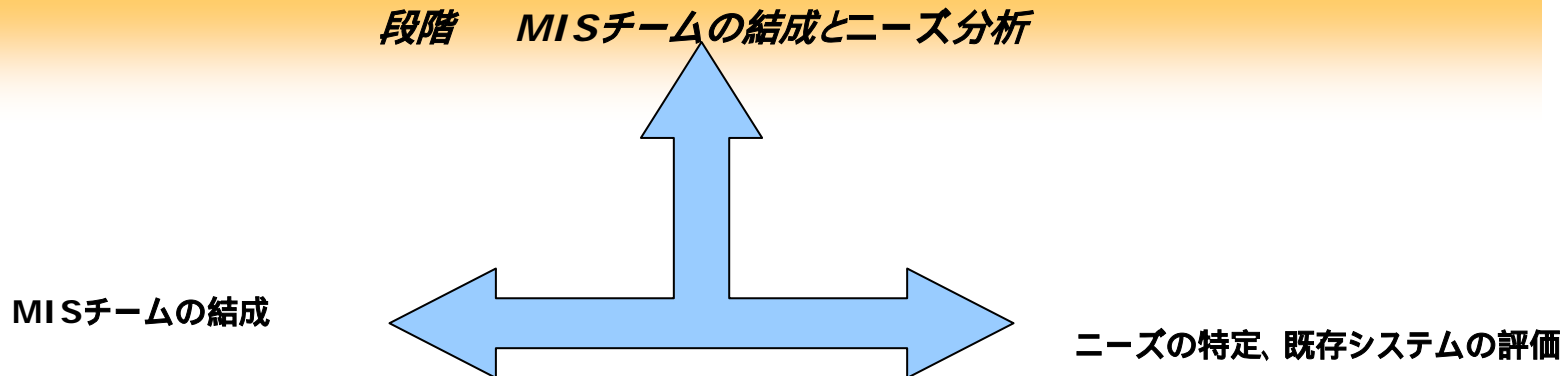


ニーズの特定、既存システムの評価

MISチームの結成

MISを設立する際、まず、MISをデザインし、開発工程の実装に関わるMISチームを結成する。このチームには上層マネジメント部から現場スタッフまですべてのレベル、また、各部署からの者と内部監査の責任者を含めるべきである。また、情報を利用する者と技術者双方を含めると同時に、情報システム部門のスタッフを数名含める。チームリーダーは、MFI機関の職員で、上層マネジメント部の全面的なサポートを得ながら十分な権限を持ち、官僚的、組織的な問題を避けるため、上層マネジメント部に直接報告する体制をとる。

マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム



ニーズを特定し、既存システムを見直す

ニーズを特定するために、始動チームはすべてのレベルにおける情報利用者を特定し、また、以下の四つの分野における既存の方針や手順・過程を文書化しなければいけない。四つの分野とは、会計、オペレーション、内部のコントロール、そして、システムパラメーターバリュー (system parameter value) である。

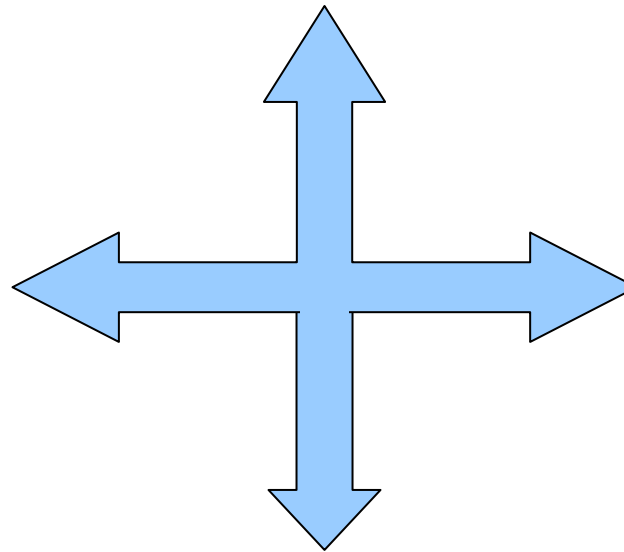
これらの方針や手順・過程の文書には、どこでデータが集められ、変換処理され、意思決定に利用され、保存されているか、つまりどのように情報システムが働くかが、図で明確に表れる。MISチームは、既存システムの弱点やうまく働かない理由、改善すべき点を分析、評価すべきである。MFIの組織構成も、MFI業界の基準と比較しながら、見直しを行うべきである。

既存システムの評価の終了後、組織の発展、再編成、新しい制度といった、組織の戦略に関する重要な問題について、将来的なニーズを真剣に議論する必要がある。

マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

段階 実行可能性とMISのプロジェクトレポート

実現可能性の分析



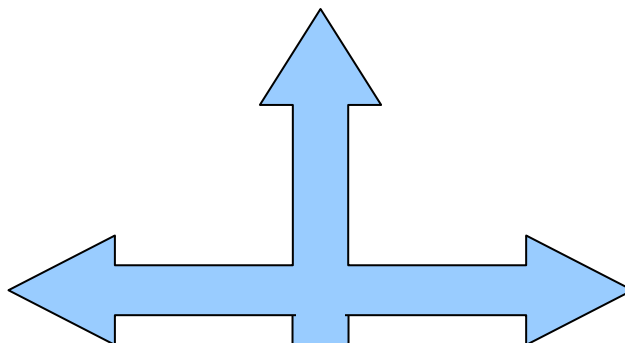
選択肢の評価

MISプロジェクトレポート

マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

段階 実行可能性とMISのプロジェクトレポート

実現可能性の分析



選択肢の評価

実現可能性の分析

ほとんどのマイクロファイナンス機関が、比較的高い割合でコンピュータを利用している。よって、プロジェクトチームは、スタッフの能力、技術、コストの問題を加味してどの程度のコンピュータ化が現在可能なかを分析しなければならない。

スタッフの能力という意味では、プロジェクトチームは、スタッフのコンピュータを使う能力を調査する必要がある。主に、コンピュータ化されたシステムを使うスキル、スタッフの訓練、システム技術者の有無もしくは必要性、さらにスタッフが扱うことのできるプログラムの複雑さの程度などについて調査される。

・技術的な点は、ハードウェアの容量、新しいハードウェアの必要性、ネットワークのインストールといった側面についてである。

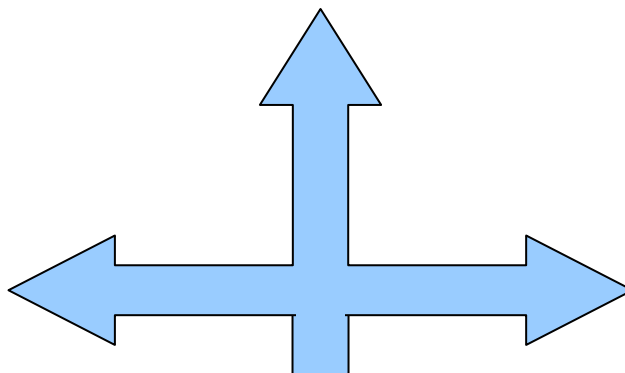
・コスト的な点としては、その機関にとってMISの作成にどれだけコストがかかるか、どれほどのコストならば実現可能性があるか、といったことである。しかし、コストというものは、組織の上層部の選択、情報システムのすべての部分におけるコンピュータ化の程度など、いろいろな要因によってかなり変わるものである。

MISのコストは、機関の特殊なニーズに基づくため、おそらく高額になるであろう。しかし、不十分な情報システムを持つことは、そのシステムが原因の問題や効率の悪さを抱えることになるという点で、余計に高くつくことになる。

マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

段階 実行可能性とMISのプロジェクトレポート

実現可能性の分析



選択肢の評価

標準的なシステムを購入する

大多数のマイクロファイナンス機関のニーズに見合う、標準的なMISというものはない。

比較的安いコスト、時間の浪費をより抑えられるという点はあるにしても、既成製品システムは、マイクロファイナンス機関の重要なニーズには応えられない。

選択肢の評価: MISの開発のために、次の3つの選択肢がある。

標準的なシステムを購入する

機関特有のシステムを開発する

既存システムを修正する

3つの選択を比較する

各選択肢には長所と短所があるので、マネジメント者はこの3つのオプションの中から、自分の機関のニーズにあう、最適な選択肢を選ぶ必要がある。情報のニーズは、機関ごとによってかなり異なるので、すべての機関の情報ニーズにあう、標準的なシステムというものはない。ほとんどのマイクロファイナンス機関は、とても長い期間をかけて発展していく、特別な情報ニーズに応えるため、機関特有のシステムの開発を選択する。

マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

段階 実行可能性とMISのプロジェクトレポート

実現可能性の分析

既存システムを修正し、向上させる

ここでは、既存システムの広範囲な修正も含まれるが、多くはシステムの大部分を残す。ここでの修正とは、システムの再編成、機能性の向上、ソフトウェアの特性の変更などである。

MI

選択肢の評価

選択肢の評価: MISの開発のために、次の3つの選択肢がある。

標準的なシステムを購入する

機関特有のシステムを開発する

既存システムを修正する

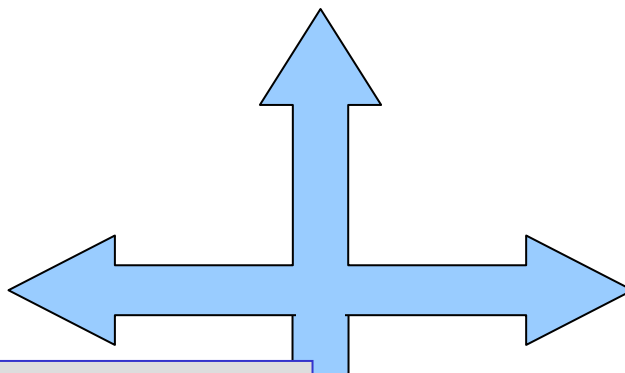
3つの選択を比較する

各選択肢には長所と短所があるので、マネジメント者はこの3つのオプションの中から、自分の機関のニーズにあう、最適な選択肢を選ぶ必要がある。情報のニーズは、機関ごとによってかなり異なるので、すべての機関の情報ニーズにあう、標準的なシステムというものはない。ほとんどのマイクロファイナンス機関は、とても長い期間をかけて発展していく、特別な情報ニーズに応えるため、機関特有のシステムの開発を選択する。

マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

段階 実行可能性とMISのプロジェクトレポート

実現可能性の分析



選択肢の評価

ニーズにあった機関特有のシステムを開発する

ニーズにあったシステムを開発する仕事は、全く新しいシステムを構築することもあり、リソースを必要とする。

これは、既存システムがマイクロファイナンス機関のニーズに合わず、かつ、既存システムを変更することが不可能で、コスト効率が良くない場合に適切な方法である。しかし、この方法には、新しいシステムがもともとあったシステムの容量に完全にあわない場合、他のどのリソースを使えばいいかといった、いくつかの問題がある。また、新しいシステムを維持するためにどういったリソースを使用し続けるか、という問題もある。

の評價: MISの開発のために、次の3つの選択肢がある。

標準的なシステムを購入する

機関特有のシステムを開発する

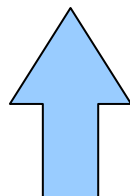
既存システムを修正する

3つの選択を比較する

各選択肢には長所と短所があるので、マネジメント者はこの3つのオプションの中から、機関のニーズにあう、最適な選択肢を選ぶ必要がある。情報のニーズは、機関によってかなり異なるので、すべての機関の情報ニーズにあう、標準的なシステムのものはない。ほとんどのマイクロファイナンス機関は、とても長い期間をかけて発展し、特別な情報ニーズに応えるため、機関特有のシステムの開発を選択する。

マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

段階 実行可能性とMISのプロジェクトレポート



選択肢	利点	欠点
標準的なシステムを購入する	コストが低～中かかる 実行のための期間が短い	外部の技術的なサポートに頼る 機関の方針や手順と完全に合うことは少ない 機関が変化してもシステムを変更することができない
既存システムを修正する	実行のための期間が中くらい 機関の政策と手順に適応させることができる	コストが普通～高くつく 外部の技術的なサポートに頼る 将来的なシステムの変更にコストがかかる
内部システムを開発する	技術的なサポートを内部で行う 機関の政策や手順に完全に合わせることができる 機関の変更にあうように、あとで修正できる	多額の金を投資する 機関内のリソースを集中させなければならない。 システムの開発や完全に機能するまでに時間がかかる

する

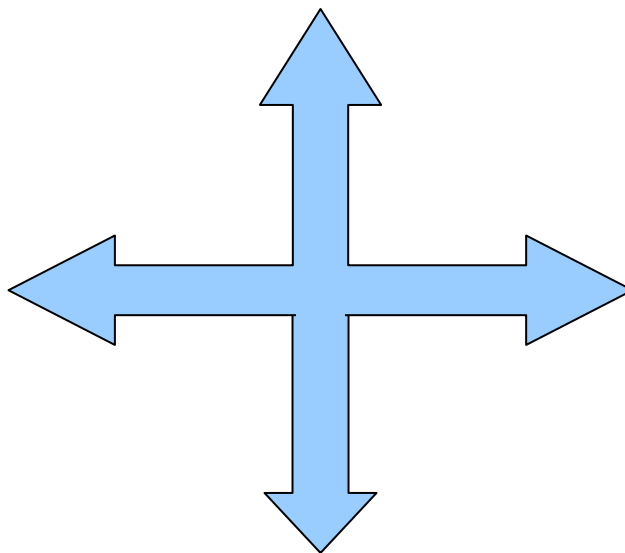
する

プシヨンの中から、
のニーズは、機関
標準的なシステム
期間をかけて発
選択する。

マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

段階 実行可能性とMISのプロジェクトレポート

実現可能性の分析



選択肢の評価

MISプロジェクトレポート

ニーズ評価及びMISプロジェクトレポートを起草する

プロジェクトチームは、現在のシステムの評価、情報ニーズや機関の将来的な計画に見合った選択肢の発見、その選択肢を実行するのにかかるコストや、期間の枠組みなどの、MISのニーズレポートを作るべきである。マイクロファイナンス機関のマネジメント部とほかの関係者は、レポートにコメントし、最終レポートに反映させる。これで、このプロジェクトチームの仕事は終了し、次の作業として、第2段階に進むためにMISプロジェクトチームを立ち上げる。

マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

技術とソフトウェアを決定する

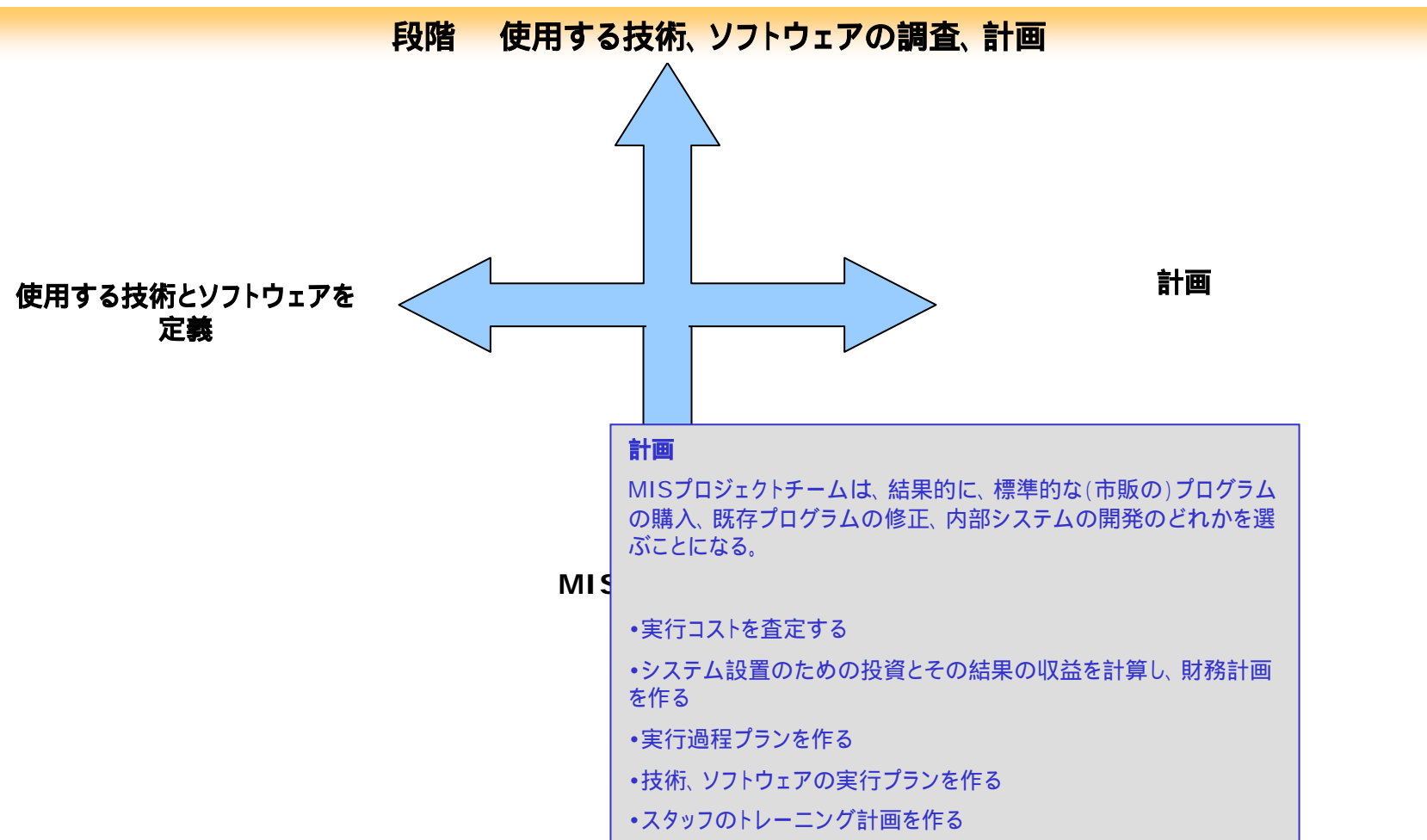
MISプロジェクトチームは、ソフトウェアと技術を詳しく評価するため、ソフトウェア会社の代表者と協力する。MISプロジェクトチームは、企業方針、工程手続きの全てに関する文書をソフトウェア会社に提供し、関連する項目を網羅的に検討する。

まず、マイクロファイナンス機関が現在導入している、次のIT技術の項目について検討すること。

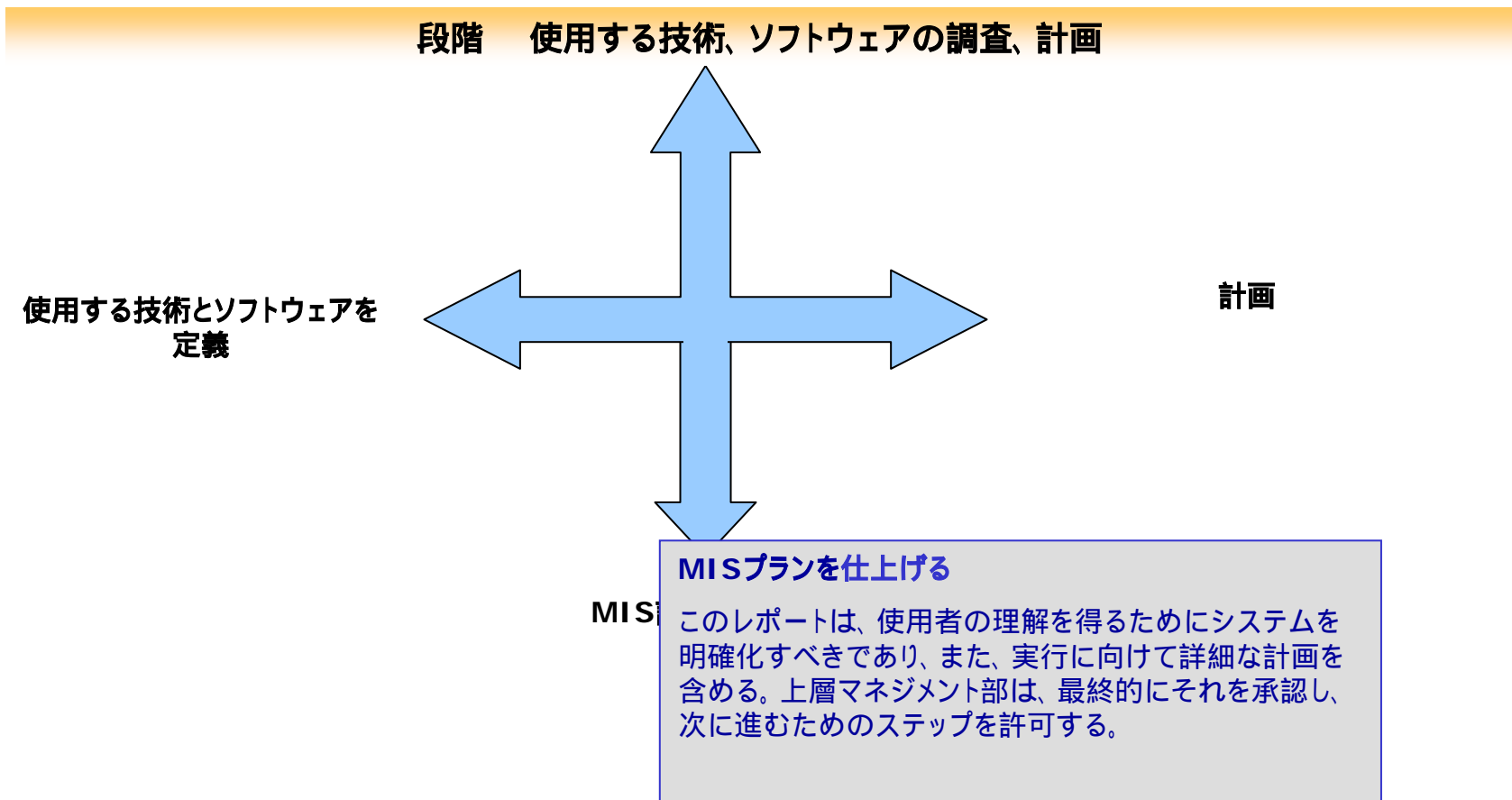
- コンピューターとその周辺機器
- インターネットとイントラネット
- LANとワイドエリアインターネット
- 顧客とネットワークプラットフォーム
- パーソナルプロダクティビティソフトウェア
- グループウェアソフトウェア
- データベースマネジメントシステム
- ハードウェア、ソフトウェアマネジメントシステム
- 給与計算ソフトウェア
- 貸付追跡ソフトウェア
- 口座取引処理ソフトウェア
- 金融分析ソフトウェア
- 顧客関係マネジメントソフトウェア
- GIS(地理情報システム)
- 人事情報マネジメントシステム
- その他、特別なソフトウェア
- 共通データの共有とアクセス
- データセキュリティと保護
- 理想的なIT基準

使用する技術と
定義

マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム



マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム



マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

段階 システム開発及びシステムの実行

ソフトウェア開発

文書の作成と見直し

システム設定

実際のデータを使用した
システムのテスト

ハードウェアの設定

データ転送

新旧システムの併行稼働

トレーニング

マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

段階 システム開発及びシステムの実行

ソフトウェア開発

文書の作成と見直し

システム設定

実際のデータを使用
システムのテスト

ソフトウェアプログラムの開発

ソフトウェアプログラム開発のための詳しい計画を作ることは重要である。前もってスケジュールを組み、開発が進む過程で、使用者から、多くのフィードバックをもらう必要がある。

ハードウェアの設定

データ転送

新旧システムの併行稼働

トレーニング

マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

段階 システム開発及びシステムの実行

ソフトウェア開発

ハードウェアの設定

ハードウェアの設定

コンピュータ、電源装置、ネットワークケーブル、セキュリ
ティー装置などについて決定し、厳選して購入する。

文書の作成と見直し

データ転送

システム設定

新旧システムの併行稼働

実際のデータを使用した
システムのテスト

トレーニング

マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

段階 システム開発及びシステムの実行

ソフトウェア開発

文書の作成と見直し

システム設定

実際のデータを使用した
システムのテスト

文書の準備と見直し

システムについての文書は、システムを適切に使用するために準備される。政策や実行過程についてのすべての書類は、新システムの変更を反映しながら、改訂されていく必要がある。

ハードウェアの設定

データ転送

新旧システムの併行稼働

トレーニング

マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

段階 システム開発及びシステムの実行

ソフトウェア開発

文書の作成と見直し

システム設定

実際のデータを使用した
システムのテスト

システム設定

- 口座の表を構成する
- 金融商品を明確に定義する
- 顧客、貸付、貯蓄口座のコンベンションを設立する
- 各部署に連携させて、情報を共有・統合する

ハードウェアの設定

データ転送

新旧システムの併行稼働

トレーニング

マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

段階 システム開発及びシステムの実行

ソフトウェア開発

文書の作成と見直し

システム設定

実際のデータを使用
システムのテスト

実際のデータを使ってのシステムのテスト

全ての有効な口座のデータ変換のための方針・工程を確立する

- システムの働き具合を調査する
- システムが適切に働いていることを確認するために、独自のさまざまな観点からの監査作業を、開発するべきである。

ハードウェアの設定

データ転送

新旧システムの併行稼働

トレーニング

マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

段階 システム開発及びシステムの実行

ソフトウェア開発

文書の作成と見直し

システム設定

実際のデータを使用した
システムのテスト

データ転送

- 顧客の名前と社会的、経済的データの入力には時間がかかるので、経験のある技術者にサポートを依頼すべきである。
- 金融データの項目では、1つのグループの総計を、旧システムのハードコピーと照らし合わせてチェックし、また、新しいシステムのコンピューター上のリストと比較する必要がある。
- 貸付処理における、新旧システムの非互換性を考えると、機関は貸付計画を簡単に変更できないため、貸付返済計画の途中取引を取り扱う別のシステムが必要である。

ハードウェアの設定

データ転送

新旧システムの併行稼働

トレーニング

マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

段階 システム開発及びシステムの実行

ソフトウェア開発

文書の作成と見直し

システム設定

実際のデータを使用した
システムのテスト

新旧システムの併行稼働

スタッフは、新旧両方のシステムにできるだけ多くのデータを入力し、そして慎重に結果を比較する必要がある。新しいシステムがうまく機能していることを確かめるために、この作業を 2ヶ月ほど続ける。新システムの機能の正常稼働が確認されれば、旧システムを停止し、データのハードコピーを将来の参照用に保存する。

ハードウェアの設定

データ転送

新旧システムの併行稼働

トレーニング

マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

段階 システム開発及びシステムの実行

ソフトウェア開発

ハードウェアの設定

文書の作成と見直し

トレーニング

データ転送

新システムの導入により、すべてのスタッフに対して全般的なトレーニングが必要となる。事務オペレーションに使用する一部のシステムだけでなく、システム全体についても触れるべきである。

システム設定

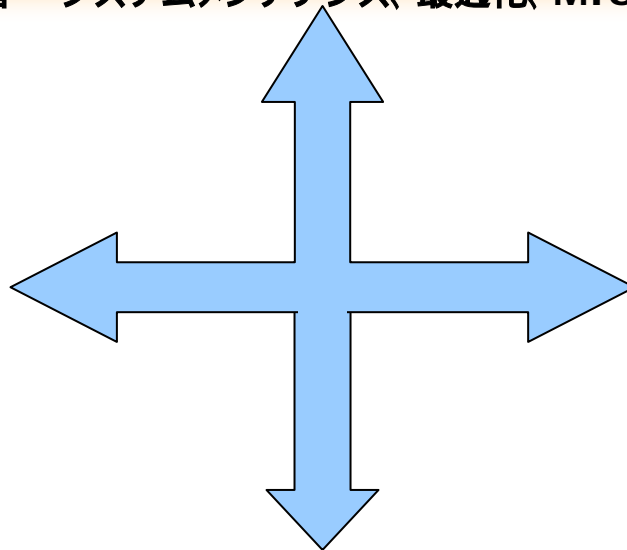
新旧システムの併行稼働

実際のデータを使用した
システムのテスト

トレーニング

マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

段階 システムメンテナンス、最適化、MISの見直し



システムメンテナンスの技術的
サポート

最適化

MISの見直し

マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

段階 システムメンテナンス、最適化、MISの見直し

システムメンテナンスの技術的
サポート

最適化

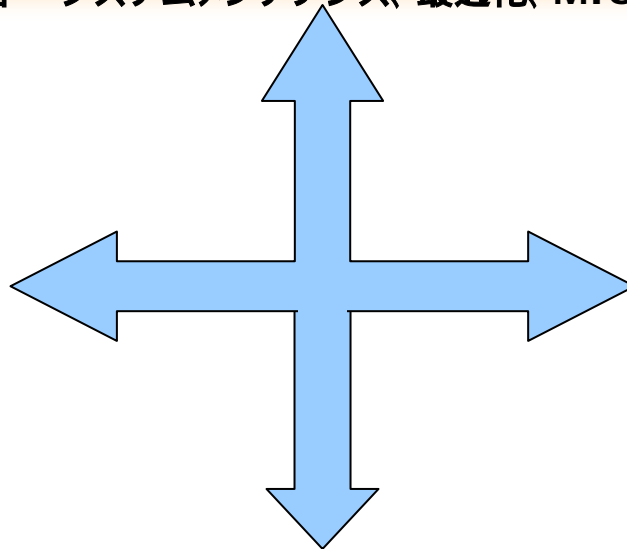
システムメンテナンスの技術的サポート

メンテナンスとは、システムの小さな変更を行う、相互的なプロセスである。コンピューターにはよく、主要な機能には変更をきたさない、バグ(プログラミング上のミス)の修正や小さな機能的向上などがある。

一度システムが導入されると、ソフトウェア会社からの、信頼の置ける定期的なサポートが必要となる。機関が成長していくにつれ、システムも、それに適用していかなければならない。これは、システムメンテナンスの追加コストとして考えられる。

マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

段階 システムメンテナンス、最適化、MISの見直し



システムメンテナンスの技術的
サポート

最適化

最適化

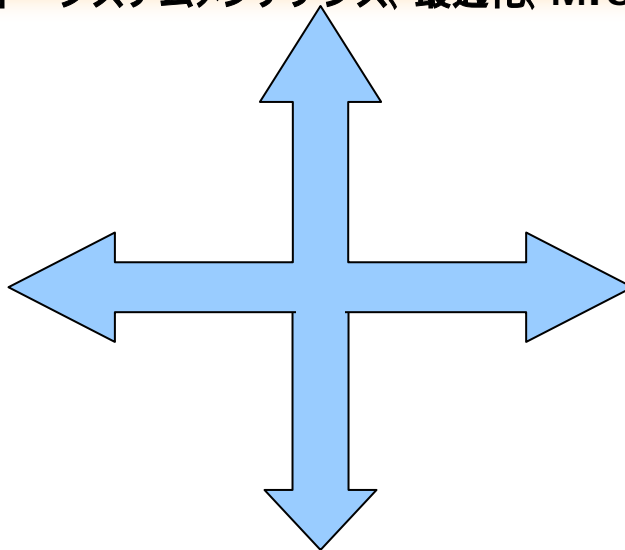
新しいシステムの実行及び、組織的、体系的なシステム評価を通じて、どのようにシステムを最も上手に使用するかを探る。

MISの見直し

マイクロファイナンス業務のための情報マネジメントシステム

段階 システムメンテナンス、最適化、MISの見直し

システムメンテナンスの技術的
サポート



最適化

MISの見直し

MISの見直し

3年に一度、システムの見直しが必要となる。
システムがうまく機能しているか、情報及びマ
ネジメントニーズにうまくあっているかについて
調べる必要がある。